

福住の生活画から「推しの1枚」をパネル展示
なら歴史芸術文化村 開村1周年記念展「山辺の道」連携企画
「永井さんの生活画から推しの1枚を選んでみた」
5月20日(土)には学生が展示解説

なら歴史芸術文化村の開村1周年記念展「山辺の道」(～5月28日(日))の連携企画として、帝塚山大学(学長:奥村由美子 所在地:奈良市帝塚山7-1-1)文学部日本文学学科(学部長:河口充勇)民俗学ゼミ(指導教員:高田照世教授 専門分野:民俗宗教)を中心とする学生と大学院生が「推しの1枚」としてピックアップした福住の生活画を、5月28日(日)まで同村にて展示します。5月20日(土)には、本学文学部の高田照世教授が福住の民俗文化に関する講演会を行い、その後、「推しの1枚」を選んだ学生らが展示パネルについて解説します。



永井清繁作画 茶摘

この福住の生活画は、山辺郡福住村(現:天理市福住町)出身の永井清繁さん(1905-1999)が、70代になってから昔の記憶をたどり、明治後期から昭和初期にかけての福住での暮らしを描いたもの。顔彩で彩色する日本画の手法が用いられ、色鮮やかに往時の様子が再現されています。開村1周年記念展「山辺の道」には、この生活画の原画が出陳されています。

今回、記念展連携企画「永井さんの生活画から推しの1枚を選んでみた」に展示するパネルは、学生と大学院生20人による「推しの1枚」の23点。記念展では公開されていない、往時の年中行事や人生儀礼の様子のほか、福住の暮らしを支えた職人の姿などの絵を四季ごとに並べました。

5月20日の展示解説に備えて、学生は事前に福住入りし、地元の方に現地案内をしてもらい、背景知識を深めました。展示解説と同日に開催される講演会「奈良山里の民俗文化～福住の生活画より～」では、10年近くに及ぶ福住での民俗調査の成果をもとに、高田照世教授が福住の生活や風習について話します。

「奈良山里の民俗文化～福住の生活画より～」

【日時】2023年5月20日(土)14:00～(13:30開場)

【場所】なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟 1Fホール

【講師】高田照世(帝塚山大学文学部日本文学学科教授)

「永井さんの生活画から推しの1枚を選んでみた」(パネル展示)

5月20日(土)15:00～ 帝塚山大学文学部学生による展示解説を実施

【パネル展示】 【日時】～2023年5月28日(日) 【場所】なら歴史芸術文化村 交流にぎわい棟2F 多目的室

貴社メディアにおかれましても、ぜひ趣旨をお汲み取りいただき、取材ならびに報道のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本件に関する
お問合せ

帝塚山大学 入試広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp(担当:鈴木)

